

## 編集後記

『哲学の探求』第53号を公刊いたしました。本号でも、意欲的かつ興味深い個人研究発表（共同研究も含む）原稿が13本収録されています。『哲学の探求』での掲載が、著者の方々のこれからの飛躍の一助となることを願うとともに、若手研究者による力強い論考をオンラインの形で広く公表できることを、編集作業に携わった一人として大変嬉しく思います。

また本号では、テーマレクチャー「哲学史の哲学・解釈の哲学」での講演内容をさらに発展させた論考を、内山真莉子先生、西内亮平先生、飯泉佑介先生のお三方よりご寄稿いただきました。登壇および寄稿のご依頼の時期がイレギュラーであったこともあり、多大なるご負担をおかけすることとなりましたが、三者三様の観点から練り上げられた大変充実した論考をご執筆いただきました。本トピックに関する今後の議論において重要な参照点となるものと思われまます。内山先生、西内先生、飯泉先生に、改めて厚く御礼申し上げます。

私の不手際もあり、編集過程ではいくつかの困難が生じましたが、本号が無事刊行に至ったのは、ひとえに、個人研究発表原稿の著者の皆様、テーマレクチャーの先生方、編集協力者の皆様、運営委員の皆様、引き継ぎ後もサポートくださった旧委員の皆様、そしてもう一人の編集委員の山田さんのお力添えによるものです。感謝しても感謝しきれませんが、何度でもお礼を申し上げたいと存じます。本当にありがとうございました。

『哲学の探求』編集委員 下山千遥

『哲学の探求』第53号をみなさまにお届けいたします。本号にも多数の、そして幅広い内容の論考を掲載することができ、たいへん喜ばしいことと思っております。

本年度はフォーラム開催が10月となり、前年度までに比べると、刊行までのスケジュールにやや余裕がなかったものと思われまます。このような状況にもかかわらず、本誌を無事年度内に刊行することができたのは、タイトなスケジュールのなか原稿を執筆してくださったワークショップ原稿および個人発表原稿の執筆者のみなさまと、ていねいな校正作業をおこなってくださった編集協力者のみなさまのおかげにほかなりません。心よりお礼申し上げます。

本号には多数の論考が寄せられたため、校正作業をスケジュールどおり進めることができるか、作業開始当初は率直に言って不安でした。しかし、それは杞憂であり、実際には多くの編集協力者の方々にご尽力いただき、編集委員として無理をすることもなく本誌を刊行することができました。本フォーラムと『哲学の探求』が、運営委員以外のみなさまにも深く支えられていることを身をもって実感した次第です。おりしも本年度から、フォーラムを安定的かつさらに充実したものとして運営することができるよう、フォーラムでは新たにクラウドファンデ

ィングを始めております（詳細はフォーラムウェブサイトをご覧ください）。みなさまには、これからも哲学若手研究者フォーラムおよび『哲学の探求』へのご協力とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に、同じく編集委員を務めていただいた下山さんに、深く感謝申し上げます。初めてのジャーナルの編集作業で慣れないことも多かったのですが、下山さんが的確な助言や指示をくださったおかげで、ひとつひとつの作業を進めていくことができました。次号では2年目編集委員として、もうひとりの新たな委員とともに編集作業を担当することになります。そのさいには、今号で見つかった課題にも取り組み、『哲学の探求』をよりよいものとしてみなさまにお届けできるよう、尽力してまいります。

重ねてにはなりますが、本号の刊行に携わってくださったすべてのみなさまに、お礼申し上げます。ありがとうございました。

『哲学の探求』編集委員 山田耀真